

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係地方自治
関係 (第一巻)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43879

#3

紅
口

果

0

0

33. 1. 14. 3. 10

私の追放に怒り

瀬長前市長談

【那覇十三日路透電】共同通信社長島次郎市長は十三日、選挙結果について次のように語った。沖縄人は日本人としての民族的精神を示した。選挙は私の追放に沖縄人が賛成している事実を示している。米軍が兼次新市長を追放するようなバカなことをやらないで平和共存と最良の策であることを見守るべきである。

米も再考の要

川島幹事長語る

自衛隊川島幹事長は十三日午後四時

那覇市長選挙の結果について次の事だ。選挙結果を発表した。この前の市長追放の運動が選挙市民の感情を害していることが平良氏の敗因の一つだが、しかし、もっと深くもって突き詰めていこうという事だ。だから、この選挙も再考の必要がある。

日本復帰実現を

浅沼書記長談

社会の浅沼書記長は十三日午後、那覇市長選挙について次の談話を発表した。

この選挙の結果を考へ、アメリカは米軍による沖縄の追放を停止し、日本国と八千七百名の兵の希望する沖縄の日本復帰を即時実現すべきである。

米官辺ては苦い顔

那覇に再び`反米市長、 `兼次氏と協力やむなし、

【ワシントン十三日特電】那覇に反米市長が選出されたことは十三日、米官辺に苦い憂鬱をまきまきもっているが、現在を分らないと述べているが、ワシントンには兼次氏が合法に選出されたことが歓迎されており、また当局は今後の最上の策は、兼次市長と協力してゆくことだの原則をいっている。

沖繩へIRBM

米紙報道

【ワシントン十三日特電】那覇市長選挙の結果は米国の管理反対運動の激化をまもることになり、米紙は一面その記事をかかっている。一方、油断を極度におよぼす重要な軍事基地として、米軍の米国の射撃を厳格に守つておられる米国のロバート・トレン、記者は十二日のワシントン・ポスト紙で、米軍のIRBM(中距離弾道ミサイル)が、中隊が近い将来、沖繩に配備されることになり、米紙は沖繩にIRBM(中距離弾道ミサイル)を配備する計画を国防総省顧問が、同会議はこれを承認し、沖繩はIRBM基地として米軍と同盟の重地を持つていっている。

当局は会議し、沖繩の企業界資金の派絡を調査し、希望をうけていることが言われている。公共建設金は、前市長が建設したと述べたため、十三日自問でついでに選出されている。

両候補最終得票数

【那覇】那覇市長選挙の結果について、無効票の数を除き、わかれた結果、最終得票は十四日以下のとおり決定した。

兼次	七〇四三
佐佐	三五四九
平良	一四〇七
廣雄	一四〇四
無効	一四〇